

長野日報 12月22日 掲載

駒ヶ根工業高校（駒ヶ根市）電気科3年生のイルミネーション製作班が、同市福岡のルビーの里で準備を進めていたイルミネーションが完成し、21日夜、現地で点灯式が行われた。課題研究の一環として、2014年から続く取り組みで、生徒らが手掛けた今年のイルミネーションは高さ約2・7メートルのピラミッド型。発光ダイオード（LED）による電飾が輝きを放ち、冬の園内を華やかに彩っている。

ルビーの里は金属加工業タカノ（本社宮田村）のエクステリア工場が、製品の常設展示場を兼ねて整備した憩いの場。夜間も一般開放しており、冬場はイルミネーションを設置している。同社からの協力要請を受けた生徒らによる飾り付けは4年目。同班に所属する男子生徒5人が夏から準備を進めてきた。今年のイルミネーションはピラミッド型の骨組みにポリカーボネートの板とペットボトル約360本を取り付け、LEDで装飾。駒工の「コマ」でペットボトル、ピラミッド

輝く駒工ピラミッド ルビーの里でイルミ点灯



完成したイルミネーションを見つめる製作班のメンバー

ドを合わせて「コマベッド」と名付けた。班長の森玉響さん(18)は「ペットボトルに光が反射してきれい。思ったより明るさが強く、いろんな色が出るので楽しんでもらいたい」と話していた。イルミネーションは来年2月末まで毎日、日没から4時間点灯する。
(堀木俊典)